

施策 7 多様なニーズに応える生涯学習・社会教育を推進する

－ 多様な学習機会を提供する －

評価	B
----	---

取組 4 2	生涯学習活動の推進				所属名	生涯学習課		
	達成目標 ※H25は目標年度の状況	H19	H20	H21		H22	H23	H24
ぐんま県民カレッジ入学者数累計	5,640人	5,960人	6,066人	6,286人	6,424人			6,300人
県立の生涯学習施設の入館者数	750,582人	748,302人	776,412人	769,719人	741,848人			760,000人

【取組結果】

- ① ぐんま県民カレッジ地域委員会の開催（5教育事務所で各1回ずつ実施）
県民カレッジ事務局と各教育事務所・市町村教育委員会との効果的な連携を図るため、具体的な課題や対応策等に関する協議を行った。
- ② ぐんま県民カレッジのつどい
県民カレッジで学習した累積単位数が一定の基準に達した受講者に対し、奨励賞を交付するとともに、記念講演会を開催した。
- ③ 生涯学習情報提供システム「まなびねっとぐんま」の更新
県民カレッジの各講座情報を入手する手段のひとつである「まなびねっとぐんま」において、県民カレッジ連携講座にキーワード検索機能を追加し、また、「映像ライブラリー」のサイトを設定し、県自作ソフトコンクール入賞作品や県教委制作の視聴覚センター所蔵映像を配信した。
- ④ ぐんま県民カレッジ「県民企画型講座」の実施
県民の幅広い知識・経験を社会において有効に活用する仕組みづくりをモデル的に実施するもので、企画提案者が講師となることを前提に、県民から広く具体的な講座の企画を募集し、講座を実施した。

結果・成果を示す実績値	H23	実績値の推移（過去3年間）
ぐんま県民カレッジ「県民企画型講座」の開催	3講座 (各1～3回)	H20：2講座(各5回), H21：2講座(各3回) H22：3講座(各1～3回)

【成果】

- ・ぐんま県民カレッジ入学者数は、目標に向け着実に増加している。また、市町村における生涯学習施策が充実してきているので、県全体としての生涯学習の推進は、概ね図られている。
- ・県民企画型講座については、県民の方々がより参加しやすくするために、講座のうち2つを中毛地域及び利根地域で開催した。
- ・「まなびねっとぐんま」の利便性向上により、自らに合った利用価値の高い情報を入手でき、学習意欲の向上が図られている。

【課題・対応】

県民の多様化・高度化する学習ニーズに対応するとともに、学習成果を社会参加活動等に結びつけていく仕組みづくりも検討する。

施策 7 多様なニーズに応える生涯学習・社会教育を推進する

－ 多様な学習機会を提供する －

評価	B
----	---

取組 4 3	読書活動の推進				所属名	生涯学習課		
達成目標 ※H25は目標年度の状況	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	
読書が好きな児童生徒の割合	(小6)	74.7%	76.4%	75.3%	75.3%	—	80%	
	(中3)	72.7%	73.9%	72.3%	73.4%	—	80%	
県立図書館の貸出冊数	454,454冊	448,079冊	453,001冊	420,832冊	450,846冊		460,000冊	

【取組結果】

① 県立図書館の図書資料整備

図書資料の充実を図り、特に幼児を対象とした絵本、小中学生が読むのに適した児童図書を整備した。また、図書だけでなく、小中学生向けのものを含む新聞雑誌、マイクロフィルム、電子出版物、外国語書籍、商用データベース等及びCD、DVD等の購入や整備を行った。さらに、課題解決・自立支援型の図書館へ向けた資料の収集も行った。

② 県内図書館の連携及び県内図書館未設置町村への図書支援

県立図書館では、県内公立図書館の中核館として、市町村支援協力車「みやま号」及び「おおとね号」の資料搬送などにより、市町村立図書館、図書館未設置町村、及び学校図書館への支援を行った。また、市町村図書館支援のための専門的資料の充実を図り、リクエストに対しても同協力車を利用した「相互貸借」により迅速に対応した。

③ 子どもの読書環境の整備

「群馬県子ども読書活動推進計画」の実現に向け、児童図書を充実し、子どもや子どもの読書活動推進に携わる者へのサービスの向上に努めた。また、子どもの読書や図書館に対する理解と関心を高める事業として、「図書館こどもフェスティバル」を開催した。

④ 親しまれる図書館づくり

「知るを楽しむ」推進事業として、年5回の講座と年2回の講演会の開催、図書館ボランティア活動支援、群馬県図書館大会の開催など、読み聞かせグループ連絡協議会など各種団体等との連携を通して、県民に親しまれる図書館づくりを一層推進した。

(義務教育課：取組2再掲)

⑤ 「ぐんまの子どもにすすめたい本200選」の活用促進

- ・ぐんまの子どもにすすめたい本200選（平成21年度改訂版）を新しく選定し、群馬県教育委員会及び総合教育センターのホームページ上で公開した。
- ・ポスター1,000枚を県内義務教育諸学校、公立図書館、県の機関に配布した。また、しおり10万枚を作成し、県内義務教育段階の児童生徒及び教職員に配布した。
- ・平成21年度改訂版に選定された図書を全て購入し、市町村教育委員会や公立図書館の希望に応じ貸し出した。平成23年度は吾妻教育事務所を通して、吾妻郡内各校、公民館図書館等に貸出しを行った。
- ・群馬県学校図書館研究協議会北毛大会において200選の本を展示するなど、教員に対する啓発を行った。

【成果】

- ・図書資料の充実に努めたほか、県立図書館で運用している情報提供システムの横断検索機能を活用することで、県民は県内の各公立図書館等の蔵書約710万冊の情報を、インターネットを通じて入手し、貸出サービスを受けることができるようになり、市町村支援協力車の搬送によって必要な図書資料を最寄りの図書館で速やかに入手することが容易になった。
- ・県立図書館については、入館者数は前年度より減少したが、貸出冊数は前年度より増加した。
(入館者数H22：373,365→H23：350,998人、個人貸出H22：420,832点→H23：450,846点)
平成23年6月より、試行的に一般書5冊、児童書5冊、視聴覚資料5点という枠を取り払い、合計15点までとし、利便性を高めたところ、貸出冊数が増加した。その後、「群馬県立図書館の設置及び管理に関する条例施行規則」の一部を改正し、平成24年4月1日に施行した。
課題解決・自立支援コーナーの設置や相互貸借機能の強化など、利用者サービスの充実に努めている。

【課題・対応】

- ・県立図書館の運営については、今後は、市町村立図書館との更なる連携強化や人的・物的な支援が求められている。また、県の施策（例えば「家庭教育支援」、「人権教育推進」等）に対する新たな支援や、施策の企画立案への資料提供など、行政支援などの役割が求められる。

評価	B
----	---

取組 4 4	社会教育の推進	所属名			生涯学習課		
達成目標 ※H25は目標年度の状況	H 1 9	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4	H 2 5
社会教育指導者の育成研修参加者	4 2 8 人	5 0 5 人	4 7 4 人	4 9 9 人	4 7 9 人		5 0 0 人
・ 県立青少年教育施設の利用者数 (4施設合計)	114,338 人	109,823 人	103,848 人	108,381 人	113,531 人		120,000 人

【取組結果】

① 社会教育主事に対する研修

- ・ 県社会教育主事等職員研修は、県の教育行政の当面する諸課題と対応策等について研修を行い、生涯学習・社会教育の推進について一層の理解を深めることを目的としているが、平成21年度からは県職員の他に市町村教育委員会に属する社会教育関係者も対象とした。
- ・ 地区別社会教育主事等研修講座を実施（5教育事務所で各1～2回実施）。
- ・ 新任社会教育委員研修会では、県・市町村の新任社会教育委員を対象に、その職務の遂行に必要な知識や技術等についての研修を行った。

② 青少年の健全育成

県内小中学校の集団宿泊・自然体験活動の教育指導を行う受け入れ施設としての利用を中心に、北毛、妙義、東毛青少年自然の家や青少年会館においては、自然体験や集団宿泊体験、異年齢・異世代交流などの様々な体験活動の場を、個性や能力、ニーズに応じて提供することにより、子どもたちの主体性や社会性、問題解決能力など「生きる力」を育成するとともに、体験活動の知識や技術を習得することにより、家庭や地域の教育力の向上を図るため、小中学生を対象とした長期宿泊自然体験活動や親子を対象とした自然体験活動、心に悩みを抱える子どもたちを対象とした集団宿泊生活体験などの自立支援事業等を実施している。

結果・成果を示す実績値	H 2 3	実績値の推移
わくわく体験塾 参加実人数（人）	79	H21： 72、H22： 56
ぐんまキッズアドベンチャー 〃（〃）	78	H21： 79、H22： 78
親子体験活動推進 〃（〃）	501	H21： 490、H22： 475
自然体験活動推進 〃（〃）	1,428	H21： 1,186 H22： 1,701
青少年自立支援 〃（〃）	183	H21： 123 H22： 558
学校利用（小中） 校数（校）	373	H21： 317 H22： 340
〃（小中） 延べ人数（人）	39,362	H21： 30,894 H22： 35,897

【成果】

① 社会教育主事

- ・ 県社会教育主事等職員研修において、平成21年度から市町村職員にも対象を広げたことで、県の施策の周知が円滑に行われている。
- ・ 地区別社会教育主事等研修講座においては、各教育事務所の社会教育主事、特別派遣社会教育主事、管内市町村教育委員会の社会教育主事、公民館主事、社会教育指導員等を対象に実施している。その中では、地域の実情に即した内容で研修を行うことができています。
- ・ 新任社会教育委員研修会では、一斉講義形式ではなく、実践事例の発表等も取り入れることで、社会教育委員としての活動が具体的にイメージしやすくなったとの意見をいただいている。

② 青少年の健全育成

- ・ 青少年が仲間との自然体験を通して、感性豊かな人間性、規範意識や協調性を養っている。特に、学校利用の場合は、通常の学校生活では行うことが出来ない体験をすることにより、望ましい人間関係を築く態度の形成などの教育的な意義が一層深まるとともに、高い教育効果が認められている。

【課題・対応】

① 社会教育主事

- ・ 地区別社会教育主事等研修講座は、平成24年度からは、教職員の生涯学習・社会教育に係る理解を深め、視野を拡大することも趣旨に加え、各教育事務所管内の小中学校、中学校及び特別支援学校の教職員等も対象とすることとした。

② 青少年の健全育成

- ・ 自然体験活動への県民のニーズは高く、募集定員に対する倍率も依然高いものがある。平成22年度から、小中学校の教育活動の受け皿として、学校の受け入れを中心に、更なる利用促進を図るとともに、プログラムの改善に努め、より多くの県民に自然体験活動の機会を提供し、効果的な事業となるよう取り組んでいるが、平成24年度以降も同様に継続していく必要がある。